



次世代に向けた「道德教育」のパーспекティブ

実施結果のご報告

日時	2024年10月26日(土) 13:30～17:00
場所	エステック情報ビル 21F 貸し会議室

ご挨拶

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 上廣道德・倫理教育研究開発推進室でございます。

先日のシンポジウム「次世代に向けた「道德教育」のパーспекティブ」におきまして、ご参加いただいた皆様に改めて深く御礼を申し上げます。

当日は25名の方にご参集いただき、「道德教育」の現状を振り返りつつ、次世代に向けた「道德教育」の在り方について、様々な視角から議論を深めることができました。

当日プログラム
開会の挨拶
シンポジウム「現状と展望」 鹿毛雅治先生 長谷川真里先生 頼住光子先生
「現状と展望」補足説明
「論点」についての意見交換
質疑応答・まとめ
閉会の挨拶



シンポジウム

開会に先立ち、本学先端教育人材育成推進機構の佐々木幸寿機構長からご挨拶を申し上げます。本シンポジウムの主旨をご説明申し上げつつ、今後の本シンポジウムならびに当室の活動についてご協力をお願い申し上げます。

つづくシンポジウムでは、まず、登壇者の先生方からそれぞれご意見を頂戴いたしました。

鹿毛雅治先生（慶應義塾大学教授）からは、教育心理学・教育方法論・授業研究の知見を踏まえつつ、道德教育の目的やカリキュラム編成についてご意見を頂戴いたしました。

長谷川真里先生（東北大学教育学部教授）からは、教育心理学の知見を踏まえつつ、道德性発達の理論をもとにご意見を頂戴いたしました。

頼住光子先生（駒澤大学仏教学部教授）からは、倫理学・日本倫理思想史研究の知見を踏まえつつ、内容項目の検討方法についてのご意見を頂戴いたしました。

続いて、コーディネーターの澤田浩一先生（國學院大學文学部教授）・齋藤嘉則（当室教授）

および登壇者の先生方との間で、「道德教育は何を目指すべきか」等の論点についての質疑応答が行われました。ご専門の異なるコーディネーター・シンポジストの先生方の討論を通じて、現状の道德教育が抱える課題が明らかになるとともに、様々な形の展望と可能性が浮かび上がりました。



その後、フロアからいただいたご質問に回答する形で、上記論点および今後の道德教育についての議論が交わされました。ご参加いただいた方々から、それぞれのお立場を通じ、忌憚のないご質問を頂戴し、論点について議論を深めることができました。

最後に、閉会行事として当室永田繁雄室長からご挨拶を申し上げます。次世代における道德教育について、多角的な視線から活発な議論が交わされたことについて御礼を申し上げると共に、今後の展望についてお話を申し上げます。

限られた時間の中ではございましたが、様々な視角から道德教育の今後について活気溢れる議論を行うことができたかと存じます。改めまして、ご参集いただいた皆様へ心からの感謝を申し上げます。

アンケート

事後アンケートでは 25 名の方からご回答を頂戴いたしました。

自由記述欄では、「道德教育」の現状と展望ならびに今後のシンポジウム運営につきまして、次のような貴重なご感想・ご意見をいただくことができました。

- より良く生きるという大きな枠組で道德科を捉えること。現場は実際にねらいや評価にこだわってしまう場面があるが様々な授業の様子があるのも事実である
- “わからない不安定さ”に耐えるということを前提におくことの重要性。そうできる状態を整えていく必要性。D 領域をていねいに扱うことの価値、可能性
- 認知と感情の統合について、とても勉強になった。最近、「知識」を道德教育の中でとても重要に考えるようになったと感じているため、尚更勉強になった。
- 脳科学とクロスする分野、人類学（価値論）とクロスする分野で道德教育のパーспекティブが新しく出てくるのではないかと感じました。
- 今日、議題に出た「道德教育の単元開発」について、考えたり、教えて頂いたりしたい。

いただいたご意見を本に、来年度も同様のシンポジウムを運営し、次世代に向けた道德・倫理教育の研究開発を一層推し進めて参りたいと存じます。

ご参集いただいた皆様に深く御礼を申し上げますとともに、今後とも当室の活動へのご協力をお願い致します。

東京学芸大学

先端教育人材育成推進機構
上廣道德・倫理教育研究開発推進室
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1
電話番号 042-329-7783
mailto: kokoro@u-gakugei.ac.jp
<https://kokoro.u-gakugei.ac.jp/>